

第9回審議会における主な意見等

1. 第8回から適正配置を論ずる区域を中学校区に移して論議し、小委員会に論点整理等を委ねた。
小委員会では今後の審議会の方向性として、緊急に対応すべき地域と中長期的な視点で対応を考える地域、学校を明らかにし、ある程度現実的な解決策を提示していくことや、仮に地域に検討会を置くのであれば、ガイドライン的に検討に資する資料を提供していくのも一つの役割ではないかなどの意見が出た。
2. 事例研究により、一般化できる方策を見出すことを期待し、学校が密集して小規模化が進んでいる地域、望ましい規模を下回り早急な対応が必要な学校、隣接校との距離が離れて大規模化が進んでいる地域の事例研究を行った。
3. 教育委員会としての案はあるのか、地域への下ろし方をどう考えているか。
4. 個別の事例について具体的な方策は考えておらず、審議の中で方策をつかんでいく。
5. 基礎的なデータをきちんと整えておく必要がある。（板橋区の小中学校の数は人口比などからみてどうなのか、学級数、1学級当たりの児童数は、国や23区で見てどうなのか、など）教育については20年、30年はスパンとして考えておく必要がある。学校規模の二極化は報告からもデータからも見てとれ、検討することは先見性がある。
また、学級に20人から30人位いると教育活動が充実するとしたなかで、人口が20人以上いるにもかかわらず、連続して20人を割るところについては慎重に考えていく必要がある。
6. 中学校の通学区域を中心に、できるだけそれに近づけていくような小学校の配置を考えたい。
7. 学校選択の理由は学校の近さ・通学のしやすさ、友人や兄弟が通うという理由が主になっているが、学校の規模についても選択の要素になっている。特別支援教育のあることが普通学級の子どもが減る理由とは考えておらず、施設に比較的余裕のある学校が特別支援教育の拠点になっていること、単学級の学校より近隣の複数学級ある学校を選んでいる状況があるためと考える。
8. これまでも、中学校区域、町会自治会を基にした地域センターの区域、などを検討してきたがそれぞれ課題があり、総論的なものと各論とのギャップも出てきた。こうした問題の克服も大切。
9. 下赤塚小、成増ヶ丘小の児童数が増えており、赤塚第三中学校の定員が難しくなることが予測されるが、学校新設は可能か。
10. 新設の必要性はあるが、土地のありようや現在の財政状況のなかで取得は難しいと考えられる。
11. 小規模校について魅力ある学校づくりができないか。例えば志村第三小学校の過小規模化は、

公務員住宅の建て替えによる人口減と学校がなくなるのではないかという風評被害による流出が魅力ある学校づくりによる人数を超えてしまったからだと考えている。こうした風評被害に特別な施策が必要ではないか。

- 1 2. 魅力ある学校づくりをせずに人数が減ったという認識ではなく、小規模化している学校もものすごく努力しているが、親は単学級より複数学級を選んできているのだらうと思う。
- 1 3. 魅力ある学校づくりをして小規模の状況を改善していくというのは審議会の目的としてどうだろう。審議会の適正規模・適正配置とは、最終目的地はどこなのか、またスケジューリングは。
- 1 4. 本日を含め5回で、年内に中間まとめを出し、3月の年度内までには答申を出す。審議会としての答申は大きな視点で、統一的な観点を出していく性格になるのではないか。
- 1 5. 魅力ある学校づくりでは、元気な子がたくさんいる学校もあれば、落ち着いた学校づくりというのもまた必要かと思っている。中学校を主体に小学校を考えたほうがよいように思う。保護者たちの考えをまず捉えることが必要なのではないか。
- 1 6. 板橋区の学校は何を目指し、こういう形で進む、その中で小規模校の必要性も認め、今後10年、20年は変えない、と公に出さないと風評につながる。風評は、学校がなくなるかもしれない、というのと、人数が少ないとPTA活動が大変だという2つがある。
小規模校のよい面として、コミュニティースクールのような方法を地域と一体になって進めたり、外国語活動をアフタースクールのように学校、地域、PTAなりが主にやっていると、その活動が学校の回りの父兄に見えてくる。
統廃合などを検討するときには学校施設の改築状況の情報も必要なので資料を作してほしい。
- 1 7. 地域概念、地域の活性化も含めた学校のありようを考える必要がある。一方、子どもたちが20人以下の場合はいいのかどうか、あるべき論、教育論も考えていかなければならない。
- 1 8. 13年度答申のときには結論が地域に出されてその結果を受けざるを得なかったのが問題。地域が結論を受けられないとなって平成13年答申が通用しなくなった。ここで結論として枠をはめるより、区民や地域の方々の意見をどうやって聴取していくか、地域の方々の議論する機会をつくっていけるかを検討してほしい。
- 1 9. 3つのブロックの例でも、例えば児童数はどうなるか、近くに大規模集合住宅はできないか、統廃合したらこんな問題が考えられるとか、交通の便や危険なところとか、色々な条件が考えられるので、一般論として具体的に示せるように進めていきたい。また、地域の声を生かすというのも全員で確認しておきたい。
- 2 0. 京都方式の補足で、地域の合意のないものはずっと小規模校でいくと決めている。そして、耐用年数や魅力ある学校づくりのメニューの情報を出している。学校の個別のフレームや物理的な制限も示し、その上で地域の人々が議論して決めていく体制を提言できるといいと考えている。